

森林工芸館の

あれこれ

no.39

6

2023

オケクラフトが

三十周年を迎えた二〇一三年

前年の二〇一二年には「プレイベント」として

「DOMA 秋岡芳夫展」を置戸町で開催

三十周年の記念事業では

現在も継続されている「すくすくギフト」など

様々な事業が実施されました

また二〇一一年に始まった

オケクラフト作り手養成塾では

途中二年の募集休止期間を経て

現役の作り手が講師を務めるなど

その指導体制にも変化がみられます

二〇一一年から二〇一五年までの期間には

オケクラフトの一〇年・二〇年後を

見据えた動きが始まったように感じられます

森林工芸館のあれこれno.39では

二〇一一年からの五年間を

【オケクラフトの歴史No.9】としてご紹介します

オケクラフトの
歴史
Since 1983

人と、木と、おけと

OKE
CRAFT
オケクラフト

pick up

2011年

2月 ◎ オケクラフト作り手養成塾募集開始

◎食卓の小物づくり教室

●「樹の小物入れ」～7月28日

●「鉋削り箸」～8月4日

10月 ◎ DOMA 秋岡芳夫展 - モノへの思想と関係のデザイン

●東京都目黒区美術館にて開催

11月 ◎ どま塾「伝統的な編組技法の一端を学ぶ」

●「ワラの籠づくり」～11月26日・27日

2012年

●オケクラフト作り手養成塾 塾生受け入れ

3月 ◎ 日本の手仕事道具集 第11集発刊

◎日本の手仕事道具集 第12集発刊

8月 ◎ DOMA 秋岡芳夫 北海道置戸展

●置戸町中央公民館講堂にて開催

2013年

●オケクラフト作り手養成塾 募集休止

◎ オケクラフト 30周年

3月 ◎ 日本の手仕事道具集 第13集発刊

4月 ◎ どま工房生活資料研究員配置

⇒3代目どま工房研究員として「那珂琴絵」配置

11月 ◎ 日本の手仕事道具集 第14集発刊

2014年

●オケクラフト作り手養成塾 募集休止

◎ 秋岡陽どま工房名誉館長就任

⇒就任記念講演「SING-ALONG 歌のちから」

3月 ◎ 日本の手仕事道具集 第15集発刊

8月 ◎ 日本の手仕事道具集 第16集発刊

12月 ◎ 日本の手仕事道具集 第17集発刊

◎「あったらいいな!こんなオケクラフト」展

2015年

◎ 置戸町開町100周年

3月 ◎ 日本の手仕事道具集 第18集発刊

4月 ◎ オケクラフト作り手養成塾 塾生受け入れ再開

8月 ◎ 日本の手仕事道具集 第19集発刊

12月 ◎ 日本の手仕事道具集 第20集発刊

DOMA 秋岡芳夫展

北海道置戸展

二〇一一年に目黒区美術館にて開催された「DOMA 秋岡芳夫展」では、秋岡さんが工業デザイナーとして活躍する以前に携わった装丁や版画、進駐軍の家具デザインといった貴重な未公開資料が展示された他、工業デザインや暮らしの提案、そしてその後に実践された地域プロジェクトなど、現代の暮らし方や生き方にも影響を与えるだろう秋岡さんの活動が紹介された。



秋岡芳夫展は、目黒区美術館で開催された翌年、置戸町に会場を移し「北海道置戸展」として開催された。置戸では併設展「生産教育から秋岡さんとの出会い」(図書館)や「謎解き道具展」(大通り商店街)も同時開催。また本展開催時には、オーブン・グッド・サロンの他、期間中には秋岡コレクションの使用して作る和菓子作りや、しぐや木工塾の皆さんを講師にお招きし、ニマを作るなど、様々なワークショップが開催され、翌年に控えたオケクラフト三十周年のプレイベントとして盛り上がりを見せた。



オケクラフト30周年

オケクラフトの誕生から三十周年。前年には秋岡芳夫展が開催され、秋岡さんとオケクラフト誕生の深い繋がりが改めて紹介された。

◎記念事業のメインイベントとして開催。オケクラフトを支えてくださった方々と共に祝うことができる内容が企画された。(二部抜粋)

【作り手コラボレーション】

オケクラフトの作り手と、木工以外の作り手が連携し、新たな生活用品提案を目指した試み。草木染めやガラス、樹皮編みとのコラボ作品が展示された。

【あったらいいな!】

暮らしの中に「あったらいいな」と感じるオケクラフトのアイデアを募集し、応募作品から作り手が試作した作品が展示された。

【すくすくギフト】

現在も実施されている「すくすくギフト」。三十周年の記念事業として、子どもの誕生をみんなで祝うことをコンセプトに、会場ではプロトタイプが展示された。

